

平成28年度 肝疾患研修会 開催報告

山口大学医学部附属病院
肝疾患センター事務局
海田里菜

山口大学医学部附属病院肝疾患センターでは、山口県肝疾患診療連携拠点病院の事業として、毎年肝疾患診療に携わる方を対象とした、肝疾患研修会を開催しております。

この度、平成28年11月8日（火）にANAクラウンプラザホテル宇部において、平成28年度肝疾患研修会を開催しました。県内医療機関の医師や看護師、薬剤師、管理栄養士、臨床検査技師、MSWなど、133名が受講されました。

〔第一部〕「一般講演」

日高 勲 肝疾患副センター長を司会として、県（行政）・医師・看護師という、それぞれの立場から、肝疾患診療の現状報告が行われました。

はじめに医師の立場から、日高肝疾患副センター長より、C型肝炎の最新治療について紹介がありました。C型慢性肝炎の治療は、個々の患者さんの年齢、遺伝子型、ウイルス量、他の病気の状態などを考慮して、治療法を選ぶ必要があります。そのためには、C型肝炎ウイルス抗体やウイルス遺伝子検査によって、C型肝炎と診断されたら、できるだけ早い段階で肝臓専門医による詳しい検査を受けたうえで、診断・治療方針の決定が必要とのことでした。

専門医により治療方針が決まって治療が始まれば、普段の診療はかかりつけ医に通院し、定期的に専門医を受診するという診療も非常に楽であること、患者さん、かかりつけ医、専門医が三位一体となって治療を進めていくことが大切であることなどが説明されました。

次に行政の立場から、山口県障害支援課の大熊様より、平成28年度から肝臓機能障害の認定基準が改正され、変更された以下の3点について説明されました。

- ①認定対象がChild Pugh分類Cのみであったが、分類B、Cに拡大されたこと
- ②1級、2級の要件が緩和されたこと
- ③認定対象がChild Pugh分類Bまで拡大されたことに伴う変更があり、Child Pugh分類Bの患者さんが初めて手帳の交付を受ける場合には1年以上5年以内の再認定が必要となったこと

最後に看護師の立場から、本院の山田看護師より、肝炎ウイルス受検啓発活動の活性化のための地域における取り組みについての報告がありました。

第一部では、様々な立場から状況報告などを行うことができました。

〔第二部〕「特別講演」

坂井田 功 肝疾患センター長の司会のもと、愛媛大学大学院 消化器・内分泌・代謝内科学教授 日浅 陽一先生をお迎えし、「C型肝炎治療のための啓発と医療連携」と題して、ご講演いただきました。愛媛県における取組として、受検⇒受診⇒受療が、C型肝炎の撲滅・

重症化の予防（肝がんリスク低減）につながることから、啓発活動に着目されました。街頭キャンペーンを始め、愛媛県、協会けんぽほか、新聞社、テレビCMを利用した啓発活動、職域に対しての啓発活動アプローチとして事業所へのリーフレット配布、社会保険労務士会との連携による啓発等を丁寧にご説明いただきました。

この度は、多くの県内医療機関の皆様にご研修会を受講していただきました。

肝疾患センターでは、これからも医療従事者や市民の方々に向けた研修会を計画していきますので、皆様の参加をお待ちしております。今後ともよろしくお願い申し上げます。

《研修会風景》

